

令和元年度 阿武町立阿武中学校 学校評価書 校長(山下恵美)

1 学校教育目標 教育目標…高い志をもち、つながりを大切に作る阿武町っ子の育成 中・長期目標…美(場を清める)礼(礼を尽くす)時(時間を守り大切に作る) ○めざす学校像～笑顔あふれる学校～ ・生徒・教職員・保護者・地域が誇りをもつ学校(阿武中PRIDE) ・生徒一人ひとりが自己実現をめざす学校(阿武中で学んでよかった) ○めざす生徒像～夢あふれる生徒～ ・志をもち、意欲的に学び、挑戦し続ける生徒(自主) ・思いやりをもち、つながりを大切に作る生徒(敬愛) ・自他の生命を尊重し、心身共に健康で、活力に満ちた生徒(健康) ○めざす教師像～魅力あふれる教職員～ ・学び続け変わり続ける教師・生徒と感動をともにする教師 ・生徒・同僚・地域と協働しつながりを大切に作る教師
--

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) 【学 校】[よさ]円滑な学校運営、教育環境の整備・充実【課題】小中連携による学習指導・生活指導の充実、課題を解決する地域連携(地域貢献、学校支援、学校運営の機能)の推進、「開かれた学校」づくり、不登校生徒の増加傾向 【生 徒】[よさ]純朴で素直、学校生活(授業、部活動、生徒会、ボランティア活動等)の充実、【課題】学力向上、表現力、家庭学習(宿題)の充実 【教 師】[よさ]職務に専念、研修意欲、チームワーク【課題】生徒目線、生徒の実態に応じた授業改善 【保護者・地域】[よさ]学校運営に関心が高い、豊かな自然、地域行事が活発、町教委との密接な連携【課題】情報提供・発信、課題の共有、ニーズに応じた学校支援、地域貢献

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 ①確かな学力の育成(主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業実践と授業研究、学力の定着をめざす個別指導、家庭と連携した学習習慣の確立等) ②特別支援教育の推進(教育的ニーズの把握と指導方法等の工夫改善、合理的配慮の提供、チーム援助の充実等) ③学級を基盤とした生徒理解の推進と人間関係づくり(学級活動や道徳、各教科での温かい人間関係づくり、客観的かつ継続的な生徒理解の実践等) ④道徳教育・キャリア教育・ふると教育の推進(系統性のある総合的な学習の時間の実践的研究、教科としての道徳授業・評価の研究、コミュニケーション能力の育成、地域貢献の実践等) ⑤CSの推進(学力を高める地域連携の推進、情報発信の工夫、PTA活動による連携推進、保・小・中・高連携の推進等)
--

4 自己評価		5 学校関係者評価					
重点目標	取組の指針	具体的方策(教育活動)	評価基準(生徒・保護者・地域住民・教職員は、各々7～15つの重点目標に評価者として設定)	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望	評価
学校運営	チャレンジ目標	チャレンジ目標(美・礼・時)を推進する	4:チャレンジ目標を意欲し、はじめのある学校生活を送っている考える生徒・教職員が90%以上 3:チャレンジ目標を意欲し、はじめのある学校生活を送っている考える生徒・教職員が70%以上 2:チャレンジ目標を意欲し、はじめのある学校生活を送っている考える生徒・教職員が50%以上 1:チャレンジ目標を意欲し、はじめのある学校生活を送っている考える生徒・教職員が50%未満	3	生徒よりも教職員の評価が低い。低いと判断する以前に様々な場面において教職員が生徒に意識させ、指導することが大切である。また、生徒会活動等を通して一層の徹底を図ってきたい。	・地域のボランティアで中高生の姿があると元気になる。継続してほしい。 ・中学生時代にボランティア活動を体験することは大切と思われ、評価も高い。 ・ボランティア活動による地域貢献が定着し、高校生や保・小へも広がりをさせている。これにより学校が停滞せず、「動いている感」が生まれたように感じる。 ・ボランティア活動に参加することは生徒の社会性を身に付けさせるうえで大変効果があると思う。社会にはいろいろな人がいるということを認識する上で重要である。 ・昨年度より主体的にボランティア活動に参加する生徒が増え、一緒に活動するものとして大変うれし。 ・ボランティアに参加するのが一部の生徒に偏っており、昨年度より参加が減っているのではないかと感じる。忙しいのもあると思うが、地域行事に関心が薄いのではないかと感じる。 ・小中の連携が、地域・保護者には今ひとつ見えないと感じる。 ・中学校教員が小学校の授業研究会に参加する機会が増え、小中のつながりを意識した取組がなされている。	B
	CSの推進、家庭・地域との連携	家庭・地域と一体となった学校づくりを推進する	4:家庭・地域と一体となりCSを推進している考える生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:家庭・地域と一体となりCSを推進している考える生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:家庭・地域と一体となりCSを推進している考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:家庭・地域と一体となりCSを推進している考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	新たな取組も展開しているが、生徒や保護者の方にはそのことがCSの取組であるという認識がなかったのではないかと考えられる。CSの役割や具体的な活動、効果などを生徒集会や「学校・学級だより」やHP等で周知する。		
	地域貢献の推進	主体的なボランティアや地域行事への積極的な参加など地域貢献を推進する	4:地域行事への参加やボランティアにより地域に貢献していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:地域行事への参加やボランティアにより地域に貢献していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:地域行事への参加やボランティアにより地域に貢献していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:地域行事への参加やボランティアにより地域に貢献していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	4	高い評価ではあるが、2学期の評価が低い。1学期に比べ2学期のボランティア数が少なかった上に、行事や部活動の関係で参加できなかったことが影響しているのではないかと考えられる。CSの役割や具体的な活動、効果などを生徒の自己有用感が高められるよう声かけや事後指導を行う。		
	小中連携の推進	小学校と連携した教育実践を推進する	4:小学校と連携した教育実践が推進されていると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:小学校と連携した教育実践が推進されていると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:小学校と連携した教育実践が推進されていると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:小学校と連携した教育実践が推進されていると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	授業での落ち着いた学習環境づくりのため学年の保護者懇談会をもったこともあり、保護者が生徒の学力向上や生活習慣の定着に不安を感じていることが考えられる。小中の連携を一層深め、生活習慣の定着や学習規律の徹底を図りたい。		
学習・心	学力向上	一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進する	4:一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が90%以上 3:一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が70%以上 2:一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%以上 1:一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%未満	3	達成度も最も低く、学力向上は大きな課題として捉えている。学年や教科により、生徒が落ち着いた学習に取り組みにくい環境があった。授業改善の努力はしているが、生徒にその実感が伝わっていない。授業規律を徹底し、落ち着いた学習できる雰囲気づくりを進めるとともに、ICTの活用やグループワークを進めるなど、一層の授業改善を進めていきたい。	・学習に取り組みにくい環境とあるが、何が原因なのか。 ・授業がわからない、おもしろくないという生徒の声を聞かなくては、生徒の理解力が下がっているのではないかと感じる。 ・担任の先生以外にも道徳の指導に力を入れ、魅力ある授業づくりをされている。 ・生徒一人ひとりを大切に指導され、個性を伸ばしていただき大変うれし。 ・さん3ふると祭り等、これまでより積極的に取り組んでいる。 ・道徳授業に地域人材を活用され、授業改善が進んでいる。 ・わかる授業づくりのために研修に力を入れ、取り組んでいる。 ・中学生には主体性、自発性を感じるが、授業を大きく変えることにより、伸びしろの分程度は伸びそうに感じる。アクティブな授業が必要。	C
	道徳教育の充実	魅力ある「道徳の時間」をめざした授業づくりの推進	4:魅力ある道徳の授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が90%以上 3:魅力ある道徳の授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が70%以上 2:魅力ある道徳の授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%以上 1:魅力ある道徳の授業づくりを推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%未満	3	2学期から全教員がローテーションを組み、授業を行っている。数値的には高い値であるが、保護者の評価が低い。これは、道徳授業の取組や学習の様子が伝わっていないからではないかと考えられる。今後、積極的に「学校通信、学校だより」等で道徳授業の振り返り(生徒の感想)を発信していく。また、道徳の授業日を家庭に知らせ、自由に参観できる機会をつくる。		
	学校行事・感動体験の充実	充実感・感動を味わえる行事の充実	4:充実感・感動を得るような行事を運営していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:充実感・感動を得るような行事を運営していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:充実感・感動を得るような行事を運営していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:充実感・感動を得るような行事を運営していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	学校では実施後、振り返りをさせているが、校内で止まっており、体験活動後の生徒の充実感や感動が保護者に伝わっていないのではないかと感じる。体験活動後の生徒の感想などを「学級だより」等で保護者へ知らせることが必要である。また、体験活動を単発で終わらせないよう、各教科と関連づけることや、学校生活や日常生活で活かせるように教師が仕組んでいくことも必要である。		
環境・安全(生徒指導)	生徒指導の充実	生徒理解を基本にした生徒指導の推進	4:教職員は生徒の良さや気持ちをよく理解できていると考える生徒・保護者・教職員が90%以上 3:教職員は生徒の良さや気持ちをよく理解できていると考える生徒・保護者・教職員が70%以上 2:教職員は生徒の良さや気持ちをよく理解できていると考える生徒・保護者・教職員が50%以上 1:教職員は生徒の良さや気持ちをよく理解できていると考える生徒・保護者・教職員が50%未満	3	教員の関わりや対応についての不満を間接的に聞いた保護者が教員に対して不信感をもっていたり、学校で個別に指導されたことなど、本人が指導された内容を十分に理解・納得できておらず、家庭で不満を漏らしていたりすることがあるのではないかと思われる。生徒への指導や対応の際には主観的な感情を入れず、公正・公平に接する。また、「何がいけなかったのか」など、自分の言葉で言わせるなどし、教員と共通理解を図る。	・学校花壇・校内美化等、各学期、タイムリーな時期に地域、保護者、生徒、先生と一緒に取り組むことが必要だと思う。(特に花壇等) ・環境整備に保護者の手が必要なら臨時に声をかけてほしい。学校の花壇がよりよくなるよう臨機応変に対応。 ・校内美化が徹底している。落ち着いた学習できる環境が維持できれば、子どもたちの心は荒れることはないと思う。 ・環境化に関しては、学校周辺(フェンス際等)の除草が今ひとつだったような気がする。	B
	生徒の主体性の育成	主体性を育む生徒会活動の推進	4:生徒会活動を通じて生徒の主体性や自立心を育成していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:生徒会活動を通じて生徒の主体性や自立心を育成していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:生徒会活動を通じて生徒の主体性や自立心を育成していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:生徒会活動を通じて生徒の主体性や自立心を育成していると考えられる生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	「しなければいけないからする」というような、責任を果たすための活動になっており、自分の意思で主体的に取り組むまでには至っていないのではないかと思われる。生徒自身が主体的に取り組めるような工夫が必要である。道徳・生活等の教科領域や学校生活全般で、人格育成に努めたり、活動の意義、目的についても、生徒の心情に届くよう働きかけていきたい。		
	環境整備の充実	学校花壇や校内美化等の計画的実践	4:学校花壇や校内美化に進んで取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:学校花壇や校内美化に進んで取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:学校花壇や校内美化に進んで取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:学校花壇や校内美化に進んで取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	技術科授業、学年や委員会活動を母体に年間を通し、計画的に行っている。今年度は萩高校祭分校の生徒、教員と連携した活動も実施した。また、大がかりな草刈りも必要なので今後も保護者や地域の支援を仰ぎたい。		
健康・体力	生徒のメンタルケア	スクールカウンセラーと連携した相談活動の推進	4:生徒のメンタルケアのためにSCと連携した相談活動を推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が90%以上 3:生徒のメンタルケアのためにSCと連携した相談活動を推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が70%以上 2:生徒のメンタルケアのためにSCと連携した相談活動を推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%以上 1:生徒のメンタルケアのためにSCと連携した相談活動を推進していると考えられる生徒・保護者・教職員が50%未満	3	教員やSCによる計画的な相談活動を行っている。今年度は思春期グロウイングハートプロジェクト(GHP)により、各学年の生徒の実態や課題に応じた自己理解、自己開示に関する授業が実施できた。	・生徒が相談しやすい環境になっているのか、生徒の目線に考える必要がある。 ・生活リズムを整えるためには家庭環境が一番大切である。保護者の理解と協力が困難な家庭があるのか。 ・講演会に参加する保護者が少なく残念である。内容のほか、検計が必要である。 ・阿武小、福賀小も同様で養護教諭の活躍がすばらしく、町行政一体となって健康教育を推進している。保護者の理解と協力が課題である。 ・部活動に親身に対応していただき感謝している。 ・野球部しか目に触れることはないが、元気に意欲的に活動している。 ・部活動は授業量が増えることが実感できることで楽しさと感じて、向上心が養われる。	B
	生活習慣の改善	授業や情報発信による規則正しい生活リズムの定着	4:規則正しい生活リズムの定着に向けた授業や情報発信に努めていると考える生徒・保護者・教職員が90%以上 3:規則正しい生活リズムの定着に向けた授業や情報発信に努めていると考える生徒・保護者・教職員が70%以上 2:規則正しい生活リズムの定着に向けた授業や情報発信に努めていると考える生徒・保護者・教職員が50%以上 1:規則正しい生活リズムの定着に向けた授業や情報発信に努めていると考える生徒・保護者・教職員が50%未満	3	保健だよりで基本的な生活習慣に関する情報発信は継続的に行っている。また、講演会やノーマディヤチャレンジを実施するなどメディアとの上手な付き合い方についても生徒、保護者に啓発を行っている。今後は関連する授業においても積極的に取り組んでいきたい。		
	部活動の充実	目標・意欲をもち取り組む部活動の推進	4:生徒は目標をもって部活動に参加し、意欲的に取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が90%以上 3:生徒は目標をもって部活動に参加し、意欲的に取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が70%以上 2:生徒は目標をもって部活動に参加し、意欲的に取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%以上 1:生徒は目標をもって部活動に参加し、意欲的に取り組んでいると考える生徒・保護者・地域住民・教職員が50%未満	3	生徒は高い評価である。卓球部やバレー部は地域で優れた実績も収めている。ガイドラインも示され、休養日を確保したうえで心の健康に配慮し、生徒の良さを生かし、一人ひとりが意欲をもって活動できるように指導してきたい。		
業務改善	効率的な校務組織編成と会議運営	効率化を生む校務の適材配置と会議時間の適正化	4:効率的な校務組織が編成され、また、会議時間の適正化が図られていると感じる教職員が90%以上 3:効率的な校務組織が編成され、また、会議時間の適正化が図られていると感じる教職員が70%以上 2:効率的な校務組織が編成され、また、会議時間の適正化が図られていると感じる教職員が50%以上 1:効率的な校務組織が編成され、また、会議時間の適正化が図られていると感じる教職員が50%未満	3	会議は勤務時間を超えることはほとんどないが、起案という形ではかかっているため検討までには至っていない。また、会議1、2日前に多数の起案が上がるため丁寧に確認することがおそろそかになっている。企画会の定期的な開催や見直しをもって業務を進めることが必要である。	・他の中学校に比べて早帰りが実現できていると思う。 ・全くわからない。	B
	時間外業務時間の改善	時間外業務時間を削減するための組織や職場環境の整備	4:時間外業務時間を削減するための組織や職場環境の整備を推進していると考えられる教職員が90%以上 3:時間外業務時間を削減するための組織や職場環境の整備を推進していると考えられる教職員が70%以上 2:時間外業務時間を削減するための組織や職場環境の整備を推進していると考えられる教職員が50%以上 1:時間外業務時間を削減するための組織や職場環境の整備を推進していると考えられる教職員が50%未満	3	平均時間外勤務時間は41.7時間で45時間以下であるが、年間360時間以内にするには30時間を目安にしなければならない。部活動休養日の確実な設定や業務の平準化に努めていきたい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題) 学校教育目標である「(郷土や人との)つながりを大切に」という点ではボランティア活動や地域行事への積極的な参加などの地域貢献は学校評価からも全学調や県の生徒質問紙の結果からも十分に達成できている。今後は参加だけにどまらず、活動の企画や運営にも携わらせ、創造性や主体性、表現力を養わせたい。 一方で「高い志をもち(学力向上・キャリア教育)」については、達成は十分ではない。学力の定着、向上は本校の重要な課題として捉えている。基礎基本の定着と一人ひとりを大切に「わかる・できる・楽しい」授業づくりや地域貢献ボランティアや充実感・感動を味わえる学校行事を通し、自己肯定感や自己有用感を高めていきたい。特に学力向上の柱となる授業の質を高める意欲や工夫が教員には必要である。 さらに「道徳教育の充実」については教科化に伴い、評価の研修や多様な価値観に触れさせ、議論の意欲を高め、地域の方とともに考える授業や全教員によるローテーション授業に計画的に取り組んできたが、評価は高くなかった。「CSの推進、家庭・地域との連携」、「学校行事・感動体験の充実」等もそうだが、学校の取組の意図や内容が生徒や保護者に十分に伝わっていないこと課題であると考えている。 また、本年度は「生徒指導の充実」も課題として挙げられる。生徒一人ひとりの特性や背景を理解し、寄り添いながら教員と生徒、生徒同士の人間関係をさらに良好なものにしていく必要がある。
--

7 次年度への改善策 ①学力の向上(朝学の見直し、授業改善、家庭学習の質の向上、学習規律の徹底) ②道徳授業の充実(やまぐちっ子の心を育む道徳授業推進校) ③小中連携教育の推進(生活習慣、学力、授業改善、学習規律、いじめ予防、不登校対策、特別支援教育) ④生徒理解を基本にした生徒指導の推進 ⑤情報公開の工夫(HPの改善、学校だより等各種たよりの活用) ⑥業務改善の推進(業務の平準化と改善、行事の見直しと改善、部活動休養日の確実な設定、定時退行の奨励)
